

2010 年度報告書（研究員）

氏 名	猪股祐介
職 位	研究員
<p>研究概要</p> <p>戦後日本の満洲移民の言説とそれを生産する社会関係について、「体験」の時期（1945－65年）、「証言」の時期（1965-90年）、「記憶」の時期（1990年－）と区分したうえで、本年度は「体験」の時期を対象に、満洲移民の言説の収集・整理・分析を行い、満洲移民体験者の主張と満洲認識を明らかにした。</p> <p>具体的には以下の作業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満洲移民に関する小説・開拓団史・体験記等を収集・分析した。 ・満蒙同胞援護会・全国開拓自興会等の引揚者団体資料を収集・分析した。 ・「未帰還者に関する特別措置法」に対する満洲移民関連団体の対応を、引揚者団体資料によって、明らかにした。 ・「引揚者定着援護事業」「在外財産賠償請求運動」「未帰還者帰国促進運動」に対する、世論の動向を、新聞記事等によって明らかにした。 ・満洲移民送出が多かった、長野県・岐阜県の拓友会の3名に対してインタビュー調査を行い、拓友会の活動（団誌編纂・慰霊碑建立など）を明らかにした。 ・満洲移民経験が、小説・開拓団史、引揚者運動や拓友会の活動を通して、地域社会・日本社会という公共圏において語られるようになる過程を分析することで、満洲移民をめぐる親密圏と公共圏の再編成について考察した。 <p>以上の作業を踏まえて、「体験」の時期の、満洲移民の言説の特徴と引揚者定着援護・在外財産賠償請求運動・未帰還者帰国促進運動における、国家・地域社会・満洲移民関連団体・満洲移民引揚者の間の社会関係に関する論文を執筆中である。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>1. 論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猪股祐介. 2010. 「異郷に郷土をつくる－凌霜塾と郡上村開拓団」. 『史苑やまと』, 8: 34-47 ・猪股祐介. 2010. 「オーラリティにおいて当事者性を問う意味」. 『日本オーラル・ヒストリー研究』, 6: 49-51. ・猪股祐介. 「引き裂かれた移民／忘れられた移民とその還流」. 蘭信三編. 『読む事典 人の移動：日本とアジア』. 東信堂. (印刷中). <p>2. 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猪股祐介. 2010. 「満洲移民経験者の語りの登場：1950年代の『開拓団史』を中心に」. 日本社会学会第83回. 	

